

第1回自転車安全利用促進計画検討委員会議事録

日時：平成27年7月7日

場所：京都府公館第5会議室

- | | |
|-----|--|
| A委員 | <p>単なる教育をするということではなくて、自転車のルールを教えるときに、こういうルールがあるから守りなさいというのではなかなか守ってもらえない。小さい子には何故こういうルールがあるのかというのをきちんとわかってもらうことによってそのルールを必然的に守ってもらうことができるのか、自転車がどこを走ればいいのか、自転車が走るところがわかるように、路面にきちんと書く、自転車に乗る人がわかるような取組をすすめていく。</p> <p>あと、個人的なことになりますが、歩道を走るのがあたりまえという形ではなかなか車道を走るとするのは怖いなと思っておりました。今回こういう計画をつくるなかで、色々、自転車のことを勉強していく中で、逆に、車道の左側を走ることによって、段差がなくすーっと走っていける、歩行者が多いなかを歩行者をすり抜けて走っていかなくてもいい、走りやすさと教育というのをきちんと両方セットで考えていかないといけないのかなと思っています。</p> |
| B委員 | <p>万が一加害者になる場合や被害者になる場合もありますので、高校生の時点で賠償責任等で大きな負担にならないようにということで保険制度に入るような運動もしております。</p> <p>交通安全指導、活動をするときに白線が引いてあると自転車は車両だよ、ここ走りなさいよと指導できるんですけど、車道が狭い、ここを通るのは危ないところは歩道を走りなさいとなる。啓発を年回4回から6回実施しているんですけども、そういうときには警察署の方にも来ていただいて、細かいレクチャーを受けながら一緒に活動をさせていただいています。まず、やっぱりマナーを守ることが大事だと思います。</p> |
| C委員 | <p>私たちは、人通りの多いところ、自転車がたくさんとまっているところを重点的に警察署の方と私たちボランティアとで、啓発活動を行っているんです。現場に出て、実際に思うことは、みなさんのマナーが全然できてないということなんです。7月に烏丸今出川で大がかりな自転車の指導をさせてもらったんですけども、学生さんがすごく多く、来る人来る人にイヤホンだめということで注意しました。ほんとうに細かいところの決まり、一人ずつのマナーが全然できてないなということを感じた。</p> <p>左側通行だとか、傘さし運転はいけません、イヤホンしてはいけません、そういうことをみなさんといっしょに啓発していこうと思っています。</p> |
| D委員 | <p>マナーの話がありましたが、私ども会社でも、毎月、月初労働日に出入口でとかで自転車通勤者への活動をやっております。梅雨どきになってきますと、傘を差して乗ってくる人が非常に多いということで、正門に門番がいますと、</p> |

その前で傘を閉じて濡れながら入ってくるというようなケースがあるんです。注意もするんですけども、まあよろしいやん、ということでその場でなんともなければ大丈夫、自分さえ良ければ、そういったところのマナーが非常に曖昧になってきている。

私は関東のほうで勤務しておりましたが、京都へ戻ってきますと自転車の方が縦横無尽に後ろも見ずに曲がる、右も左も走り回るとこのを見ますと非常に恐ろしく見えることもあります。

丁度私どもの直近で歩道を自転車で走っている方と、歩道に出ようとしている自転車がぶつかる通勤途中の事故がありました。どちらが加害者になるか被害者になるかわからないんですけども、安易に歩道を走らない、自転車が走るところを明示する、左側を走りやすくするなどの環境が出来ていけばと思います。

E 委員

私も大学で教員をしまして、普段は滋賀県のキャンパスにいるんですが、その他にも京都市内にもキャンパスがあります。やはり自転車通学の学生が非常に多くて、近隣の住民さんからはたまに苦情がきているというような状況です。せまい街路を突っ走っているというようなところで、住民さんの方からかなり危険だというようなことが言われているそうです。学生にそういったマナーの向上というか、ルールを職員と相談をしていますが、そうはいつでもたくさんの学生がいっぺんに通学をしますので、大量の自転車が通行するというようなところを、どういうふうにもうまく誘導していくか、あるいは通行空間をどういう風に作っていくかということも少し考えないと行けない。

今回、自転車の視点から色々考えていくことも必要なんですけれども、自動車の人から見てもよくわかるのか、歩行者やバイクの人から見てもよくわかるのか、他の交通手段の人から見てもわかるような啓発、道路の作り方ということも考えていかないといけない、或いは、自転車が通行しやすくというのはなかなか現実問題難しいと思いますので、道路を使い分けていくというようなものが必要なのかなと少し思っています。

F 委員

マナーの向上が大切だと思いますが、規則を守ることに限っては、心理学の研究では三段階あるというふうに言われておりまして、一番高いところが道徳水準で、次の段階は、慣習と言いますか規則の段階で、一番下の段階は、個人の段階であると。要は自転車に乗っているときに私たちはどのような意識であるかということなんですけど、自転車って人と同じだと思っているんですけどね、人が歩いているときにしていることは、自転車でもしてもいい、だから、傘を差していますよね、或いは、イヤホンで音楽を聞いても良いというふうに思いがちなんですけど、それはだめなんだ、自転車というの、車の一種なので、という意識をみんなが持つようになりますと、これは劇的に改善するんじゃないかなというふうには思っています。

ヘルメットでも、ヘルメットをかぶるとするのは子どもだけではなくて、むしろ高齢の方たちは頭部の損傷の事故が減るのかなという風に思っています。

みんなが自転車に乗るときにはヘルメットをしているというふうにしていただければと思います。西洋の社会では、みんなが自転車に乗るときにヘルメットをするのが普通ですから、新しい運動をするといいいのかなという気持ちもあります。

G委員 自転車のマナーの向上とルールへの遵守ですけれども、非常に自転車のマナーが悪いですね、これは学生が多いということもあるでしょうし、学生の自転車利用が多いということもあるでしょうし、環境の問題もあるかと思います。ルールに関しては一時停止、信号を守ると言うことは当然わかっているが、実際の運転行動で止まらないというのは、やっぱり意識の問題だと思います。

私どもも特に力を入れているのが、小学生の交通安全教室なんですけれども、子ども自転車安全大会ということで、子どもたちを表彰している。自転車で子どもの時からルールを守る習慣をつけたら、車のハンドルを持つようになって、そういう意識は根付いているだろうと非常に理想的な考え方ですけれども、それは長いことやっていくなかでわかるんでしょう。小学生の交通安全教育というのは、今後学校ももっと力をいれていただいて、効果が出てくるものかなと思います。

H委員 高齢者とか、一人暮らしの家庭に、反射材などの啓発物品をお配りしたりしています。ヘルメットのことで、宇治田原町では昔から中学生の子がヘルメットをかぶって、自転車通学をしているんです。宇治田原町は先駆けて中学生の時から自転車通学にはヘルメットをかぶってたんやなと思います。

私は、車で通勤するんですが、自転車の子がびゅっと飛び出してきて怖かったことがあったんですが、次の、同じ時間帯に出会うと、その子はちゃんと止まるようになってくれたんですね。自分が怖い目をしたら自転車のルール守るんやなと思いました。

I委員 生涯学習的なプログラムというのはやっぱり必要だと思います。ルールとかマナーもきちっと教えていただくことは大事なんですけど、なぜ右側の逆送が危険なのかを理解させる必要があると思います。また、自転車は車道左側を走らなければならないのは分かっているけど、「左端通行が怖い」と感じている人がいます。この人達が左側通行をしない理由、原因を究明し、それにあった指導や走行環境整備などもしていかないと、「左側を走って下さい」と言っただけでは、問題の解決ができないと思います。

それと、安全教育をするための人材がすごく不足していると言われてますが、指導者の育成ですよね。育成のプログラムを作っていただきたいなと思います。

J委員 私は車の免許をとるまで、自転車が車両という認識がなく、歩道を普通に走っていた。自転車の事故の割合で若い人が多いというのは、自転車が車両という認識がないこと、また、車が避けてくれるとか、車の人は私のことをわかっていてくれるだろうという感じで、車の人任せにして歩いたり、自転車に

乗っていたりしていることがあるんです。そういう認識を持っている人が多いんじゃないかなと思います。自分が車を運転するようになってから、お互い任せっきりになっているから事故があることを学んだ。

自転車に乗っている人がまさか自分が事故にあうとは思っていないし、他人事だと思う意識がすごく強いと思う。免許をとるまでは、見通しの悪い交差点とかはそんなに見ずに走っていたんですけど、でも、自分が誰かを怪我させてしまうんじゃないかというふうに考えるようになってからは、自転車もちゃんと見通しの悪い交差点とかはバイクを運転する時と同じように右見て左見てというようになって、自転車は車両という認識をもたないといけないと思います。

私が行っていた高校では、自転車に関する教育がすごくされていて、並列走行はあかんとか、車道を通りなさいという風に、あとは、雨が降っているときはカップで、今はどうかわかりません。ただ、高校の時の教育って勉強だけじゃなくて人生においてかなり重要な教育、自転車の乗り方というのも私は高校の時にそういう教育を受けてきたからであって、そういう教育を受けてきていない人はやっぱり自分が危ないことをしているという認識がないのではないかなと思うので、小中高の小さな時から自転車は車両であるという認識と、自分が加害者になるかもしれない、被害者になるかもしれないという認識をまずは植え付けなかったら、大人になってからもそれは直らないのではないかなと思いました。

B委員

確かに今のこどもに教育していくと、大人になってから、先ほどもおっしゃったと思うんですけども、逆に、途中でルールを無視してという子どももいるでしょうし、そのためにも、保護者がしっかりルールの意識というのを、子どもに示すことが必要だと思います。